

大地震発生

避難の必要があるかどうか迷うとき

大火災が発生し、火・煙から身を守る必要があるとき

いっとき避難場所
(近所の公園等、自治会・町内会や地域で決めた場所)



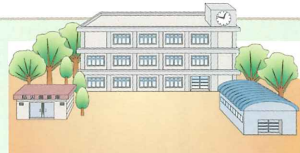
広域避難場所
(一定の広さのある場所)



家屋倒壊等で自宅に戻れないとき

けがや病気になったら、緊急度・症状の重さに応じて、医療機関等を選びましょう

地域防災拠点 (小・中学校41か所)



各地域防災拠点の備蓄品

食料・水	クラッカー/1,000食	毛布/240枚 ※	救	ジャッキ又はレスキュージャッキ/1台
	缶入り保存パン/1,000食	ランタン/80台		金属はしご/1本
	水缶詰/2,000缶	テント/2基		応急担架用ボール/10本
生	おかゆ/460食	モジュラーコード/1基	救	担架/10本
	粉ミルク・ほ乳瓶/19セット	トランシーバー/2台		ハンドマイク/2個
	スープ/220食	リヤカー/2台		つるはし/5本
活	移動式炊飯器(小学校)/1台	グラントシート/10枚	助	大ハンマー/5本
	ガスかまどセット(中学校)/1台	松葉杖/5組		スコップ/5本
	断熱シート/240枚	保温用シート/50枚		ロープ/5本
生	生理用品/425個	給用水槽1t/1個	助	てこ棒/5本
	高齢者用紙おむつ/210枚	エンジンカッター/2台		大パール/5本
	乳幼児用紙おむつ・紙パンツ/1,350枚	ガソリン式発電機/5台		ワイヤーカッター/5本
活	トイレ用紙/192巻	ポンベ12本付/1台	助	大なた/5本
	組立式トイレ/2基	投光機/5台		のこぎり/5本
	トイレバック/5,000セット	ヘルメット/10個		掛矢/2個

※備蓄庫のスペースによっては、毛布が保管されていない拠点もあります。

特別避難場所

地域防災拠点での避難生活が困難な要援護者のために、必要に応じて開設

軽症者

生命の危険がなく、入院を要しないとき

中等症者

生命の危険はないが、入院を要する程度のとき

重症者

生命の危険性があるとき、又は生命の危険が切迫しているとき

応急手当て
対応可能

医師の診療
が必要

地域定点診療拠点 (12か所)

市内で震度6弱以上の地震が観測された場合に、12か所の地域防災拠点に併設

巡回診療

医師会等で編成する「巡回診療」チームが巡回

災害時協力病院 (6病院)

青葉さわい病院
(元石川町4300)

市ヶ尾カリヨン病院
(市ヶ尾町23-1)

たちばな台病院
(たちばな台二丁目2-1)

緑協和病院
(奈良町1802)

横浜新都市脳神経外科病院
(荏田町433)

横浜総合病院
(鉄町2201-5)

災害拠点病院

昭和大学藤が丘病院
(藤が丘一丁目30)



◎診療所などの医療機関は、被災後、診療可能となった段階で、「診療中」を表す旗を掲示します。

赤色の旗…災害拠点病院

黄色の旗…災害時協力病院、診療所、地域定点診療拠点